

「江府町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議」による 平成 27 年度地方創生事業の検証について

開催日 平成 28 年 7 月 27 日

有識者

産	江府町商工会 会長	川端雄勇
官	西部総合事務所 日野振興局副局長 江府町担当コンシェルジュ	伊藤 賢
学	米子工業高等専門学校 教養教育課 准教授	加藤博和
金	鳥取銀行根雨支店 支店長	田中 敦
金	山陰合同銀行江府支店 支店長	浅中雅彦
言	新日本海新聞社 西部本社 編集委員	門永隆一

有識者からの意見

ー基本目標 I 住んでみたいまち、帰りたくなるまちづくりー

◆住まいの整備

- 相談件数が増えていることから事業効果が表れている。西部圏域を対象とした移住定住ツアーで江府町にも 15 名訪れているので、そうした方を移住につなげることが肝要である。
- 空き家の登録件数や相談件数は増えているが、物件がたくさんあってもそれが借り手のニーズに合ったものがどれだけあるのかが重要である。ニーズに合った住宅整備、また整備を支援する必要がある。
- 江府町の人口が今後どう動いていくのかという点で、転出入の理由を調査しておく、対策が打ちやすくなると思われる。ニーズ把握をすることで見えない課題も見えてくる。

◆にぎわいの創出

- KPI（目標数値）が主要イベント回数となっているが、こういった賑わい創出のKPIはどれだけ人がやってきてお金を使ったかということが指標になる。イベントの参加者数などは、大まかな数字でも良いので今後は調査してほしい。

◆効果的な情報発信

- ホームページが見やすくなっている。ただ、しっかり見てみると古い内容がそのままの部分もある。そういったところは早めに直さした方がいい。
スマホ版でも見やすくなっているなのでこの点は良い。中身を充実してほしい。

－基本目標Ⅱ すこやかでいきいき暮らせるまちづくりについて－

◆切れ目のない子育て支援

○ここまで子育てに手厚い支援するところは他にない。住民や移住定住者へ積極的にPRしていくことが大切である。

◆高齢者の暮らし支援

○地域包括ケアを進めていき在宅介護などを充実させることで、KPIの達成に努める(施設入所率を減らしていく)方向は良い。

－基本目標Ⅲ 産業振興により活力と雇用を生み出すまちづくり－

◆新たな事業の創生

○道の駅奥大山に並んだ商品を見ると、地元産品が少ない。せっきく江府町の道の駅なので江府町産の品や加工品がもっと充実するような事業を推進してほしい。

◆産業の振興

○観光やにぎわい創出の分野になるかと思うが、大山開山1300年に向け機運が高まっている。この追い風をいかし、大山周辺を巻き込んだ新たな観光事業への取り組みが必要である。

○有効でないと判断された事業について改善に向けた動きや考え方の整理が必要である。